

平成27年度 事業成果報告書

(平成27年4月1日から平成28年3月31日まで)

1. 地雷処理支援事業全般成果実績

カンボジア政府機関のCMAC(カンボジア地雷対策センター)と共同して事業を実施し、住民参加型地雷探知チーム5名により、カムリエン郡、サンパルルーン郡及びプノンプラ郡内の6村8箇所の地雷原を探知し、約25ヘクタール(累計約119ヘクタール)の農地を安全にするとともに、パイリン州などの村人からの情報による回収活動、対戦車地雷によるトラクター爆破事故発生時の緊急探知活動、危険回避の啓蒙活動を行った。

詳細は、以下である。() 数字は2011年8月からの累計

- (1) 処理した地雷数 : 対人地雷60個(248個) 対戦車地雷19個(102個)
- (2) 処理した不発弾 : 179個(529個)
- (3) 処理した面積 : 253, 299平方メートル(1, 198, 059平方メートル)

2. 地域復興支援事業等全般成果実績

日本語学校1校(累計10校)、井戸5基(累計32基)、日本語教室約[60名]、車椅子33台(101台)、日本企業の支援5社、芋焼酎地場産業の発展指導、邦人訪問見学者87名(累計491名)の受入れ、その他文房具の寄贈など、支援者との仲介活動により、地域の復興支援を実施した。

詳細は、以下の9事業である。

(1) 相互の友好交流を促進する事業

前年度に引き続き、松山市の企業とバタンバン州の企業の交流を促進するための仲介、調整を実施した。松山市の企業関係者は4回カンボジアに来られ、相互の交流を図った。更に、東温市海渡る車椅子事業実行委員会様から車椅子30台、松山市の支援者から3台をバタンバン州の地雷被災者に贈られた。バタンバン州知事からは感謝状が、同会及び支援者に贈られるなど交流が6年間続いている。

(2) インフラ整備を支援する事業

ア 道路整備

今年度該当なし。

イ 井戸掘削

プノンプラ郡内に5基完成し、村人の生活環境の改善を図った。(32基)

(3) 農業の発展を支援する事業

今期は、特になし。

(4) 地場産業の発展を支援する事業

地雷除去後の畑には、キャッサバ芋などが植えられる。芋は安値で隣国タイに売られていたので、何とか村人の収入を上げようと、この芋に付加価値を付けることを模索、芋

焼酎の開発を2008年から始めた。松山市の酒造メーカーのアドバイスを受け、試行錯誤で開発したところ、大変美味しいと評される商品が出来た。バタンバン州知事によって「ソラクマエ」と命名され、現在カンボジア国内で販売されている。また、カンボジア政府からは、更に海外進出してほしいとの要請を受け、日本、韓国、中国の物産展に出店した。更に、サトウキビ焼酎やラム酒の製造にも着手し製造している。6月からはプノンペン空港、シェムリアップ空港内の売店でも売られることが決まった。現在、日本へ輸出をするため調整中である。

(5) 日系企業の誘致を支援する事業

2008年に1社、2011年に2社、2014年に1社、計4社四国中央市の紙加工会社を活動地の村に誘致している。更にカンボジアで活動している松山市の会社の支援を行うとともに、今後も数社の支援仲介、誘致を検討中である。現在、日系企業等5社とIMCCD計6団体で「CJIP協議会」を作り、月に1回協議会ミーティングを実施し、村の発展に寄与することなどについて、相互の意思の疎通を図っている。今後も、企業活動と村の発展に直接貢献できる活動を模索しながら実施する。

(6) 教育環境の発展を支援する事業

埼玉県の支援者のご寄付で日本語学校を1校建設した。3教室の校舎で、約60名の児童及び社会人が日本語とパソコンを学ぶ環境が整備された。

(7) 人材の育成を支援する事業

ア 留学生の支援

青森県八戸市の高校にタサエンコミュニケーション出身のタン・チエンターを2010年3月から留学させていたが、2013年3月卒業し、同年4月から松山東雲女子大学に進学させており、2016年4月から4回生として勉学に励んでいる。2013年11月タサエンコミュニケーション出身のスロ・リスラエンを松山に招致し、2014年4月から松山の聖カタリナ女子高等学校に留学させ、2016年4月から3年生として勉学に励んでいる。また、八戸市の高校にタサエンのソピアップ1名が短期留学（2014年8月～10月）として受け入れていただき、日本での生活や勉学を体験した。

イ 建設技術の習得支援

今期はなし。

ウ 日本語教室・パソコン教室

村の子供たちに日本語とパソコンを教え、将来、日本企業への就職や、通訳、日本語で職業に就けるように支援している。生徒のうちこれまでに、日本への留学2名、プノンペン大学の日本語学科へ3名、プノンペンの日本語学校へ6名入れている。更に、八戸市の高校に短期留学生として昨年に続き、今期も1名を受け入れていただいた。日本語学校の現在の生徒数は、日本語教室が約40名、パソコン教室が約20名である。2014年5月には、カンボジア政府から「日本語学校」として正式に認定された。2015年11月には新しい日本語学校の校舎が完成した。

エ 鳥取大学に留学していたカンボジアの大学生1名を松山の会社に就職させた。

(8) 講演、写真パネル展などを通じ平和構築を啓発する事業

ア 日本での講演活動

小学校、中学校、高校、ロータリークラブ、ライオンズクラブなどでの講演を54回、少人数での交流会を16回、計70回実施した。(累計282回)

イ 写真パネル展示

会社、学校、講演会などでの掲示を実施し広報活動を行った。

ウ 日本人のタサエン地区など訪問見学

87名(延べ491名)の邦人が活動地タサエン地区を訪問し、地雷処理活動や村の様子を見学した。特に大学生のスタディーツアーが60%を占め、地雷処理という戦後処理を行いながら平和を回復した村人との触れ合いの中から「心の豊かさとは」、「人の幸せとは」何かについて認識を深めていた。また、松山市内の中学3年生が一人でタサエンを訪問し7日間現地研修をした。2015年10月から2016年3月までの5ヶ月間、広島大学生がインターンシップ研修生としてタサエン宿舎で生活体験をし、IMCCDの活動を体験した。

(9) 広報に関する事業

パンフレット2000部、機関紙「カンボジア便り」を11月と5月に作成、配布し広く支援者などに活動を報告している。昨年度、作成した「小冊子」2500部を有効に活用し広報を行った。

更に、日本国内における広報活動は、一時帰国の約1ヵ月間を活用し、帰国月平均テレビ2~3回、ラジオ1回、新聞3~4回、講演10数回、交流会などを実施した。特に、NHK総合TVで全国放送が1回、四国地区放送が再放送を含め2回放送され多くの方々にIMCCDの活動の一端を知っていただく機会になった。

また、愛媛県内に「分会」(八幡浜分会、新居浜分会)を設置した。更、全国都道府県に「支部」を設置し、現在、群馬支部、広島支部、東京支部、兵庫支部が活動中である。また、小中高大学生がIMCCDの活動に関心を示し、小学2年生の児童が取材による発表で愛媛県知事賞を、中学3年生の生徒が単独でタサエンを訪問し訪問記を発表、高校生がタサエンを単独で訪問し放送部の仲間と短編ドキュメンタリを制作、愛媛県、四国地区大会を制し、全国で最優秀賞に選ばれ総務大臣奨励賞の荣誉に輝いた。

著書 『地雷処理という仕事』—筑摩書房—

『平和の種になりたい』—IMCCD—

以上